

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692000033		
法人名	株式会社きずなケアサービス		
事業所名	グループホームよさの(かぐら) 【外部評価結果は2ユニット総合評価結果である】		
所在地	京都府与謝郡与謝野町字三河内 883番地2		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2692000033-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2692000033-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁 131番地2
訪問調査日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にサロン活動や外出に力を入れているが、今年度も感染症対策のため、ほとんど取り組めずに残念に思っています。地域へ向けては集まっの活動が出来ない分、家で一人でも取り組める問題を作成し各戸配布したりしてつながりが持てる工夫をしています。外にあまり出かけられない分、中で季節を感じて楽しめる様に、季節ごとの行事や創作物の作成、手作りおやつを楽しんでいます。自分で行けることは自分でしてもらえない部分を介助して自立支援しています。家族との関係では面会制限があり会えない分電話やリモート面会、毎月の写真付き家族様メッセージの他に年間アルバムを作成し、日々の暮らしが伝わるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざした活動を大切にされており、学校関係や、公民館を活用した地域との多彩な行事協働や参加が定期的に行われていました。コロナ禍の制限下において、従前通りの交流は困難になっていますが、可能な範囲から地域の社会資源を活用し、地域との交流再開拡充に繋げられるよう配慮されています。外出制限のかかる中、近隣へのドライブや人気の無い場所への訪問等、利用者が外気に触れ、季節を感じて頂き、体を動かせる機会の創出が心がけられています。日常の支援の中では、運動能力、生活能力の維持のため、手先や頭を使うレクリエーションを積極的に採用し、楽しみながら機能維持、能力維持につ繋げられるよう配慮されています。理念基本方針に沿った人との繋がりを大切にされており、利用者とのコミュニケーションに注力した支援の提供に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【外部評価結果は2ユニット総合評価結果である】

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で密を避けるため、集まったの理念の唱和は現在行っていないが、フロアにユニット目標をはり、常に意識して仕事に取り組むことができています。	理念基本方針は、人としての繋がり、寄り添う支援を主眼に、地域密着型を踏まえた理念が設定されており、唱和等により、日常から継続した確認共有が行われています。各フロアに理念基本方針に基づいたユニット目標を掲示し、常に意識した支援の提供が行えるよう配慮されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域サロンや映画会が開催できていない状況にあり、以前の様な交流の機会を持つことはできていない。	学校関係への協力、地域の公民館を活用した多彩な行事やセミナー等が開催され、地域との交流が定期的に確保されています。コロナ禍の制限下において、従前通りの交流は困難ですが、制限解除に伴い、可能な範囲から、再開、拡充に努められています。従前は、地域や家族参加型の行事も開催されていましたが、今年度より可能な行事から、可能な範囲での再開に取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動として認知症サポーター養成講座を近隣の小中学校で実施している。コロナ禍前は地域サロン開催時に相談コーナーを開き、介護支援専門員が相談に乗っていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、書面にてできる範囲で行っている。	コロナ禍の制限下において、対面での開催は困難な状況であるため、書面による情報提供にて共有を図られています。紙面資料のみに留まらず、画像等も含めた施設の様子がわかる資料提供が行われています。従前の対面開催時は、スライドを活用し、施設の様子や状況を理解しやすい情報提供が行われていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により直接対面しての機会は減少したが、電話で連携をとれるように取り組んでいる。	町からの要望を踏まえ地域ニーズに基づいた、認知症サポーター養成講座等を含めた地域活動に積極的に取り組まれています。地域の施設諸事情を踏まえた意見交換や要望等が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対策委員会を設け、2カ月に1回会議を開催し、常に身体拘束の対象となる行為が行われていないかどうか検討、確認している。フロアのドアも施錠していない。	2ヶ月に一回、身体拘束並びに虐待に関する適正化委員会が開催されています。年2回の職員研修が開催されています。研修の機会には、職員同士でも相互チェックにより、拘束や虐待に繋がる事の無いよう、配慮されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、書面ではあるが内部研修を開催し、自分自身のケアが適切か見直す機会も持っている。職員同士でも介護の仕方が虐待や不適切にならないか話し合う機会を常日頃からもつようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方がいないため、実践的に学ぶ機会はないが、必要な時には利用できるように考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、また改定時には専門用語をわかりやすく説明し、不安や疑問が残らないように丁寧に意見を聞きながら説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日々食べたい物やしたいことから、できるだけ丁寧に気持ちを聞き取るように心がけている。家族とはコロナ禍のため対面で会う機会は減少したが、その分こまめに電話で報告したり意見を聞いたりするように心がけている。	コロナ禍の制限下において、面談や会議時における意見徴収機会は損なわれていますが、電話等によって意見を聴取し、運営に反映出来るよう努められています。家族の要望によって、希望する家族には健康管理表等の情報提供が行われるようになり、また、LINEを活用した面談も家族希望によって実現しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍のため会議が書面開催になり、機会は減ったが常日頃聞くように努めている。	職員の意見・発案を基に、コロナ禍の制限下においても実行可能な行事やイベントの継続、出来る方法を検討し、実行に移されています。日常支援においても、職員の発案で可能な範囲の備品購入や工夫に繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各係活動や日々のリーダー業務など常に向上心を持ってよう努めている。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	コロナ禍のため、リモートではあるが、外部の研修にも参加できるように進めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	コロナ禍のため、機会は減っているがリモートで研修等を通じて交流できるように取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	面接時、契約時にもできるだけ細かく聞き取りを行い、入所当初には聞き取りきれなかった部分を日常の会話の中で聞き取り、安心して生活してもらえるように努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	面接時、契約時に些細な不安や思いを話してもらえるように、声掛けをしたり、話しやすい雰囲気を作り、できるだけこまかく聞き取れるように努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入居初期に必要なサービスを聞き取り、見極め提供に努めている。また入居後も常に今必要なサービスが提供できているがミニカンファレンスや会議を通じて確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす関係を築けるよう会話をしながら一緒に食器洗いや洗濯物畳をしたりしている。また長年の知恵を教えていただいて、生活に活かしていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく家族と一緒に支援できるように、毎月の家族様メッセージや日々の電話を通じてこまめに様子を報告したり、希望を聞き取ったりして連携できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くをドライブして懐かしい景色を眺めたり、昔からの友人と手紙のやりとりを続けられるよう支援しています。コロナ禍で面会ができていない分、手紙や自分が作った作品をプレゼントしたりして交流を継続できるようにしています。	コロナ禍の制限下において、従前のような対面交流が困難であるため、手紙や作品の送付を拡充することによって、交流を継続できるよう配慮されています。地域範囲等の、可能な外出機会等での交流継続に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を見極めながら、利用者が孤立しないよう、人間関係が円滑に楽しい時間が過ごせるように、席の配置を考慮したり、同じ活動を一緒にしていただいたりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も出会えば挨拶したりしている。また退居時には本人が亡くなられた後の退居でも何かあればいつでも遠慮なく声をかけてくださいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の会話の中やケース会議等での聞き取りで希望や思いを把握できるように努めている。	利用者の意向、思いを踏まえた支援の提供に努められています。介助中の雑談や、会話の中で、知り得た情報の共有に配慮されています。	利用者の思いや意向の把握できた内容を、職員全体で共有しやすい記録・書式の拡充が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人、家族、ケアマネ等より聞き取りし、多方面からこれまでの暮らしを把握できるようにしています。また入居後は利用者とのコミュニケーションの中で、より把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、体調を把握して共有するように努め、その人にあったケアを心がけています。またしっかり申し送りをすることで、その日の状況、状態を共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議前には本人、家族へ聞き取りを行い、それぞれの意見や思い、希望を反映できるようにしています。	アセスメントシートに沿った、モニタリングが行われ、担当職員等全体でのケース会議が行われています。利用者本人並びに家族等の意向、意見の聴取が行われています。関係職員等の検討を踏まえて、介護計画の策定に繋がられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は本人の記録にも記入し、変化、気づきがある時は別にリーダーファイルにも記入し、いち早く伝達・共有できるようにしています。また申し送り時に必要があればミニカンファレンスを行い、共有します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の病院の訪問リハビリ事業を活用したり、訪問美容、訪問歯科を利用したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は地域のお祭りへの参加や図書館の利用などしていたが、コロナ禍からはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を聞いて、基本的に今までの在宅でのかかりつけ医で継続して診てもらえるように支援する。</p>	<p>本人、家族の希望に沿った従前のかかりつけ医での受診が継続されています。往診による受診が大半ですが、専門医受診や外来による受診時は職員による同行が基本で対応されています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態の変化や気づき、不安に思うことは看護師に相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時はホームでの情報を詳しく伝達し、早期に退院できるように支援します。また退院前には入院中の食事形態や体の状態などできるだけカンファレンスも行い把握できるようにしている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時の契約時に終末期についての説明をします。また実際に重度化された場合は終末期に向かっていると思われる場合は主治医、家族と密に連携をとりお互いが納得して支援を行えるよう取り組んでいる。</p>	<p>終末期にかかる指針が定められており、入居時に説明をし、同意が得られています。終末期対応については、主治医・訪問看護と連携し、看取り支援が行われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会は実施しているが、実際の訓練を行うことはできていない。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回地震や火事の想定で日中対応型、夜間対応型と分けて避難訓練をしています。避難訓練のマニュアルも常に見直しを行っています。年に2回は消防署の立会訓練も行えるようにしています。</p>	<p>夜間対応を含めた訓練が実施されています。訓練実施後には、マニュアルの見直しに取り組まれています。地震・水害・火災等の訓練、避難所対応訓練等に取り組まれています。10日分の飲料水・食品・備品類備蓄があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格を踏まえて、その方々に合った言葉を選び声掛けしている。丁寧に接するように心がけている。	利用者の尊厳を大切に、言葉かけや接し方に留意されています。利用者間のプライバシー侵害にも配慮し、相互プライバシー侵害が生じにくいよう、表示等の工夫によって取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き自己決定してもらえよう支援しています。難しい方には二択にする等工夫して少しでも希望を聞き取れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを最優先するようにしているが、どうしても難しい時には理由を説明し納得を得られる方法を探すように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洗面が難しい方にはホットタオルで顔を拭いてもらったり、起床時に今日着る服を自分で選んでもらうようにしている。できる方はマニキュアを塗ったり化粧したりできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや団子やモチを丸める、調理や片付けなどその人に合わせて、できる事を一緒に行うようにしている。嗜好調査アンケートを実施しみなさんの希望を取り入れるようにしている。	可能な範囲で、利用者と共に食事準備を継続できるよう努められており、利用者の尊厳、存在感を尊重されています。毎週定期的に開催されるカレーの日は、利用者皆で準備を行い、楽しむ機会となっています。行事等の際は、ちょっと贅沢を感じられ、楽しみに出来るメニューの提供に配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に合わせて普通食、刻み食、粥、ミキサー食等、食事形態や量の調整を行っている。水分量も記録し気を付けている。水分が取りにくい方には果物でとれるようにしたりもしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の支援はできていないが、夕食後に歯必ず支援している。義歯は夜に預かり洗浄している。自分のできる方には声掛け、難しい方には介助して行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方には見守り、介助が必要な方については、その方の尿量やタイミングに合わせたトイレの声掛けをして失敗を減らすようにしている。オムツやパットの使用を減らすための具体的な検討はなかなかできていない。	排泄自立の維持を意識し、見守り範囲で自立した排泄が継続できるよう、留意した支援の提供が行われています。声かけ等に配慮し、利用者の尊厳・プライバシーを損ねることがないように努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の感覚が長い場合は水分をいつもより多くとってもらおうよう声掛けしたりフロアを歩いてもらったり食べ物で様子を見る等している。それでも難しい場合は主治医に相談し薬を処方してもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まない方にもできるだけ気分よく入ってもらえるように声をかけるタイミング等工夫している。どうしても同じ時間帯になりがちだが、できるだけ希望を聞き取るようにしている。	週3回の予定浴が基本ですが、利用者の意向や状態を踏まえた上で、予定変更や予定外入浴、シャワー浴への変更等に対応されています。同一法人の併設施設の特殊浴も活用し、適切な入浴支援が出来るよう配慮されています。個浴によるプライバシー確保が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回シーツ交換と居室掃除を行っている。状況に合わせて衣類や室温を調整し、いつでも安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬や臨時薬は様子観察に努め、職員間で情報共有している。「お薬の説明書」を読み薬の目的・副作用を知り症状の変化に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アンケートや普段のコミュニケーションの中で希望を聞き取り、自分の好きな趣味の手作業や塗り絵をしたり、好みの食べ物を食べれるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか思うように外出ができていないが、車から降りないで、景色を見にドライブに出かけたりはしている。通院の後にそのまま近くをドライブしたりもしている。	コロナ禍の制限下において、従前のような外出は困難ですが、可能な範囲で近隣の社会資源活用、車移動で感染症対策に配慮された場所への外出等、制限下で可能な範囲の、外出支援に努められています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自分でお金を持ち管理するということはないが、家族から預り金として預かりそのお金で一人ひとりの希望を聞き取り職員が代わりに購入にでかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時は電話できるように支援している。手紙も家族や友人とやりとりされている方もおられる。あまりされていない方にも声掛けはしている。また年賀状、暑中見舞いをそれぞれ書いて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を聞き不快だと思われるものは取り除くように早い対応を心がけている。季節を感じられるように、季節ごとの創作物を一緒に作成し飾っている。	明るく十分な広さがある共用空間には、テーブルこたつ・ソファテーブル等、様々な家具・什器が、それぞれ複数設置されており、利用者それぞれが、その時々にごくしやすいスペース確保が出来るよう配慮されています。温度湿度に配慮し、感染症対策も踏まえた管理に努められています。利用者の動線を踏まえ、安全性にも配慮した備品等の配置が心がけられています。テラス部分での外気浴・日光浴を楽しまれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気が合う方同士近くで座ってもらっている。フロアは自由に席移動できる雰囲気、席を移動して会話したりできるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家とできるだけ近い空間になるよう家で使っていた家具や飾りなど持ってきてもらうようにしている。その人その人に合わせて安心できる居室づくりに努めている。	入居前に利用者の自宅の部屋を撮影し、極力再現できる居室内配置や空間作りに努められています。利用者個々が思いのある、または大切なものを装飾されたり持ち込まれたり、また、入り口は利用者自身がわかりやすいよう、それぞれの思いで工夫した目印や装飾等が施されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂に紙を貼ったり、居室入り口には利用者の名前を掲示して自分でわかるようにしている。自分でできることはできるだけ自分でしてもらい見守るようにしている。		